



# MYCOTON

ミコトン

～ ウクライナ生まれの人体防護吸着剤 ～



## ミコトンについて

ウクライナでは、チェルノブイリ原子力発電所事故が起き、放射線により多数の被爆者が発生しました。『ミコトン』は、原発事故で被曝した人たちに起きている放射能汚染による後遺症障害の軽減、改善を目的に開発された、健康促進高性能サプリメントです。

現在、世界に於いて、放射能汚染だけではなく、有害重金属等の化学的有害物質による環境汚染も非常に増加してきました。また、食の発展に伴い、人々が食する物の中に、多くの合成香料、着色料、香辛料添加物も出てきました。

そして、現在の市販されている殆どどの薬剤は合成製薬であり、一部健康に悪影響を与える物質も含まれております。

**『ミコトン』はこれらの毒素を体内から取出し、毒素に侵された箇所の修復・人体の持つ免疫効果を最大限引き出す作用を持っております。**



## ミコトンの成分・安全性

ミコトンは純粋な天然の火口茸 (Fomes fomentarius) という医療用キノコから特許製法により、人体に有効な成分のみを抽出させたサプリメントです。ミコトンの主成分は3種類の生物活性物質 (キチン・ $\beta$ グルカン・メラニン) により構成されています。

キノコのキチンは、非常に優れた天然の吸着剤であり、 $\beta$ グルカンは強力な免疫修復作用があります。また、メラニンは高効率の生体防護剤・抗酸化剤の役割を果たします。

ミコトンは他のサプリメントより多くの、臨床試験を受けたサプリメントであり、ミコトンを大量に連続的に服用しても毒性や副作用がないことは、数世代の動物実験に於いて、確認されております。

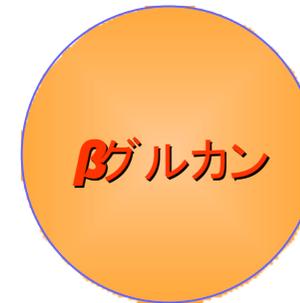
ウクライナ科学研究大学の結論の基、ミコトンはウクライナ健康省より1997年、栄養補助食品として承認されました。ミコトンは15年間ウクライナ市場で販売され、数万人がミコトンを健康補助剤として服用しました。実際に服用された方々からの報告に、人体に悪影響を与えたとの報告は、1件もありませんでした。



# ミコトンの主成分と効能

## キチン

- 血中コレステロール低下作用
- 脂質吸収阻害作用
- 血圧効果作用
- 尿酸代謝改善作用



## βグルカン

- 悪性細胞や感染細胞に対する免疫力抵抗力の向上作用
- 細菌や異物を除去、発病を抑止作用
- 糖分の吸収を抑える作用

## メラニン

- 体内外から侵入する毒素に対し、DNA、細胞の破壊防御作用

# 放射能汚染問題

チェルノブイリ原子力発電所事故により、ウクライナやその隣の国々では広い面積において、放射能汚染が起き、住民を放射能汚染の後遺症から防御しなければならないという重要問題が発生しました。

このような大規模な放射能汚染の場合、放射性物質は水、食事、また呼吸と一緒に人体に入り込みます。これを防ぐことは不可能に近く、放射能は少量でも人体の健康にとって危険であり、低線量放射能の永久照射によって健康への悪影響が出てくることも明らかになりました。

ウクライナ、ベラルーシやロシアの公式統計データから、通常より高い放射線環境で働いていた人、また汚染地域に居住する人々は心臓血管疾患、肺疾患、胃腸疾患、感染症やガン類疾患の発生率が、普通の人に比べ明らかに高くなる事が判明しました。

放射線の悪影響は遊離基（フリーラジカル）となります。これらの遊離基は放射線が生体細胞を通過する時に発生し、DNAの構成を阻害、体内の細胞を攻撃、遺伝子的エラーを蓄積させ、その結果これらのDNA異常は癌等の病気へと繋がります。



# 放射能汚染後遺症改善

放射線の影響により起きる、たくさんのプロセスを研究してきた結果、放射能汚染後遺症の減少、完全除去を可能にする為、下記の問題を解決しなければなりません。

1. 人体から放射性物質の除去。
2. 人体細胞内の遊離基量の減少。
3. 免疫力低下を防ぐ。
4. ウィルス等の感染症にかかる危険性を減少させる。

ミコトン服用によって上記の問題を解決する事ができました。



# 放射線障害によるミコトンの効果

ミコトンの主成分であるキチンは、吸着力が非常に高く、体内に付着した放射性物質と重金属の除去問題をクリアしました。

チェルノブイリ研究所動物実験では、マウス生体に含まれたセシウムレベルをミコトン服用1ヶ月間で、20分の1に低下させることが出来ました。ミコトン摂取しなかったマウスは、1ヶ月間で放射性物質減少は3分の1しか低下しませんでした。

汚染地域の永久居住の人々がミコトンを10日間服用することにより、放射性物質の含有率は4分の1から5分の1に低下しました。ミコトンが他の吸着剤より優れている点は、生物に有害な物質のみを取除き、生体内の有益な物質に影響させないことであり、此の事は非常に重要な事であります。

ミコトンに含まれたβグルカンの働きにより、放射線照射を受けた人の免疫力を回復させ、メラニンの働きにより遊離基をなくし、DNA障害を防ぐ役割をします。多数の動物実験、放射能汚染を受けた人々の免疫指数調査により判明した結果であります。



## ヘリコバクター・ピロリ菌への効果研究

ヘリコバクター・ピロリ菌は慢性胃炎の原因であり、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃低悪性リンパ腫と胃がんの主要病原因子であることが、確認できました。そのバクテリアは、グループ1に所属する発がん性物質であり、十二指腸潰瘍が発生する場合、殆どの原因は、ヘリコバクター・ピロリ菌による感染や転移増殖である。また、胃潰瘍の80~90%の発生原因も、この微生物であることは広く知られています。本病的現象の高発症率、持続的疼痛、通常治療の無効性、高障害率のため、新しい医薬品が次々と開発されています。

ヘリコバクターピロリ菌に対する、抗菌剤とミコトンの効果率は次頁表1に示してあります。濃度0,1 µg /mL の場合でも、ミコトンはヘリコバクターピロリ菌の増殖を完全ではなくても、抑制することが分かります。濃度が高くなると (1,0 µg /mL以上 ) ミコトンは、ヘリコバクターピロリ菌の増殖を完全に抑制します。ミコトンは、すべての濃度において、近代的な抗生物質、抗菌剤、抗ウィルス薬と同等、又はそれ以上に効果が認められています。ミコトンの毒性がないことを考えると、消化器の感染・炎症疾患の治療において、新しい抗菌剤の源泉として非常に大きな役割を果たします。



# ヘリコバクター・ピロリ菌への効果研究

表1.ヘリコバクターピロリ (*Helicobacter pylori*) 細菌増殖に対する、ミコトン及びその他の抗生物質の抗菌作用

製剤	濃度( $\mu\text{g mL}^{-1}$ )			
	0,1	1,0	10,0	100,0
ミコトン	+	-	-	-
ペニシリン	++	+	-	-
アモキシシリン	++	-	-	-
ゲンタマイシン	+	-	-	-
アンピシリン	+	-	-	-
カナマイシン	+	-	-	-
リファンピシン	+	-	-	-
エリスロマイシン	+	-	-	-
オーグメンチン	-	-	-	-
メトロニダゾール	+	+	-	-
バンコマイシン	+++	+++	+++	+++
トリメトプリム	+++	+++	+++	+++
Sulfadimethoxin	+++	+++	+++	+++
対照 (製剤使用なし)		++++		

細菌増殖:

+++ よく増殖する, ++ やや増殖する, + あまり増殖しない, - まったく増殖しない



## ヘルペスウイルスへの効果研究

ヘルペスウイルスは、一番普及率が高い病原体となりますが、大多数の感染者には、臨床的に明らかな感染プロセスの症状がありません。早期乳児期に感染、また経胎盤感染してから、ヘルペスウイルスは一生体内に残ります。体内に存在する1型ヘルペスウイルスは、性器以外にも、慢性中枢神経障害、肝臓障害などの器官障害、また胎児異常発達や死亡の原因になる可能性があります。

ヘルペスウイルスに対する、ミコトンと一番普及された抗ウイルス剤の効果率が次頁表2に示してあります。表示したデータによりますと、濃度0,1と1,0  $\mu\text{g/mL}$  の場合、生体高分子コンプレックスの抗ウイルス作用が、試験した薬品より高いのがわかります。濃度が上がると、ミコトンの抗ウイルス活性は、アルピザリン（Alpizarinum）、アミキシシン（Amixin）、グロプリナジン（Groprinosin）、メドビール（Medovir）、インプリノシン、ヘルペビール（Herpevirum）、ゾビラックスと同等であり、ガンシクロビルとバルトレックスより高い抗ウイルス効果が確認されています。



# ヘルペスウイルスへの効果研究

表2. ヘルペスウイルス (Herpes vulgaris I) ウイルスに対する、ミコトン及びその他抗ウイルス剤の作用

製剤	濃度( $\mu\text{g mL}^{-1}$ )			
	0,1	1,0	10,0	100,0
ミコトン	+	-	-	-
ゾピラックス	++	+	-	-
ヘルペビール	++	+	-	-
メドビール	++	++	+	-
バルトレックス	+++	++	+	-
ガンシクロビル	+++	++	++	+
インプリノシン	++	+	-	-
ドロプリナジン	++	+	-	-
アミキシシン	++	+	-	-
アルピザリン	++	+	-	-
対照 (製剤使用なし)		+++		

ウイルスの増殖:

+++ よく増殖する, ++ やや増殖する, + あまり増殖しない, - まったく増殖しない



# ミコトンの主な効能

- 1、腸内有用菌の増殖作用
- 2、免疫機能の活性化（自然治癒力の増強）
- 3、ガン細胞抑制作用
- 4、細胞の活性化
- 5、肝機能の強化
- 6、血糖値、ヘモグロビン値の減少
- 7、消化器官酸性体質の改善
- 8、腎臓結石の予防
- 9、外傷、火傷等の治癒



## ミコトン用法・容量

ミコトンの生物活性は非常に高く、少量服用でも効果が出ます。一日の経口投与量の目安は、大人で1.5~2gになります。子供はその半分—0.7~1g（1小匙はおよそ0.5g）で十分です。

1日3回（朝、昼、晩）服用するのが一番お勧めですが、1日2回でも効果を発揮します。

ミコトンは栄養補助食品であるので、いろんな食事（ヨーグルト、ジュース類、汁類、サラダ）と一緒に服用することも可能です。

食事の味に影響せず、水やコーヒー等の飲料と一緒に飲むことも可能です。

服用前に、ミコトンをヨーグルト、ジュース、水などを入れて、2~3分おいてから、よく混ぜて服用してください。服用時間は食前、また食中が一番おすすめです。



## ミコトン服用の注意事項

処方箋等の薬剤を服用している方の場合、薬剤とミコトンの服用の間隔を2時間以上おいてから服用して下さい。ミコトンは強力な吸収剤であり、同時に飲むと、薬剤の効果が下がります。

食中毒後、風邪、インフルエンザの兆候時、吐き気のある場合、胃腸・肝臓の痛みがあるとき、腹部の不快感時、重負荷による疲労のときなどの体調不良がある場合、ミコトンの服用投与量を2～3倍にすることをお勧めします。

現在急性疾患、慢性疾患で医者に掛かり、治療を受けている場合、ミコトンの服用を担当医師に相談して下さい。ミコトンは医薬品補助剤でありますので、正しい服用方法で、通常の治療効果を上げる作用があります。

皆様のご健康、長くて幸せな人生を送ることを心から祈っています。

生物学博士

医学博士

レオンチー・ゴロヴォイ

オリガ・セニユック

